



埼玉いのちの電話

ひとりで悩まずに…

発行人：川端 純夫 編集：広報委員会
発行所：社会福祉法人 埼玉いのちの電話
〒337-8692 大宮郵便局私書箱第 29 号
電 話：048-645-4322
FAX：048-645-4355
<https://www.saitama-id.or.jp/>

相談電話

048-645-4343 (24 時間 365 日)

フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
0120-783-556 (毎月10日午前8時から24時間)
(10日を除く毎日16時から21時)

ナビダイヤル
0570-783-556 (毎日10時～22時)



インターネット相談

埼玉いのちの電話

検索



菜の花のある風景 -さいたま市西遊馬にて-
Photo by H.Oasa



耳を澄ます

今日の講演会では、いのちの電話の相談員さんに向けて何を話そうか迷いましたが、40年ほど福音館書店で子どもの本の編集に携わり、自分でも書き、今は幼稚園の園長で子どもたちに絵本を読んでいるので、今でも子どもたちが愛してくれている本について、お話をさせていただきたいと思います。

一冊目は『よあけ』という本です。奥付に福音館で1977年に出版したとあります。絵本は奥付でいつ出版されたのかを調べてお買いになってください。おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、そして子どもたちの三代続かないと絵本と言えないという定義があり、子どもたちが愛し続けているものが絵本です。

1970年代、東京の丸善書店で、美しく内容も素敵な洋書絵本を見つけ、福音館に持ち帰りましたが、絵本のセクションで評価が分かれました。そこで日本の絵本、ファンタジーに先駆者的なお仕事をなさっていた瀬田貞二さんのお宅にその日に伺い、一度目を通して頂けるようお願いすると、その瀬田さんが翌朝お見えになり、「これは柳宗元の詩です。訳したので読んでください」と言われました。英語にも長け、漢詩にも詳しい方のなんとも美しい訳文に大変感動しました。

原詩は、漁師のじいさんが夜は岩陰で過ごし、夜明けが来ると湖の水を汲んで竹を燃やす。そして霧が消えて日が出ると山と水のみどりが現れた。人影は見えず、漁師の歌う歌声が聞こえてくるだけ、はるかに天の果てに顧みつつ流れを下れば岩の上から雲が無心に追ってくるというものです。

この絵本は、作者のシュルヴィッツが、東洋の詩と、楕円に収める絵画形式、さらに遠近法を使って西洋と東洋との一致を試みた力作だったのです。瀬田さんが感動なさり、本にして欲しいと熱望されたので、慌てて版權を取りました。

本は出来上がりましたが、営業部からは「また売れそうもない本を作って」という声がありました。一冊の絵本が出来上がる前、わが子や近所の幼稚園での反応を見て編集会議に掛けたり、営業を説得したりして、実際に本を刷るかどうか決めることがよくあります。本は既に出来上がっていましたが、私はそれを息子に見せ、説得力のある言葉をもらいたいと思いました。

児童文学作家
齋藤 惇夫氏



小学一年生の息子はその時、重篤な脱水症で入院し、点滴を受けるという深刻な状態でした。その枕元でこの絵本を広げて心を込めて読みましたがまったく無反応。これはダメだ、しょうがないと思い、その頃大好きだった『ひとまねござる』を手にとると「お父さん」と呼ぶ息子の目から涙がぼろぼろと流れ落ちました。そして「ぼくを自然の中に連れて行ってよ」と。びっくりしました。読んでもらっている時は何も言わなかった息子が叫ぶようにそう言ったのです。慌てて担当の先生の許可をもらい、車に乗せて知人の軽井沢の別荘に行きました。すると、到着から半日もたらずに息子のほおにピンク色が差し始め、やがて庭で遊び始めたのです。あの脱水症はなんだったのかと思う回復ぶりでした。

考えてみると、学校のグラウンドが一拳に土から硬いものに変えられるということがありました。蝉は出てこられなくなり、桜も切られてしまった。繊細な子どもたちは傷つき、どんどん心が鬱屈していった。けれどもそのことを表現できない。息子もそんな一人だったのではないかと思いました。

それに対して『よあけ』という本は、大好きなおじいちゃんと一緒にキャンプをしていて、朝まだ薄暗い時に出かけていったら周囲が突然みどりになったという話です。自然の中で遊ぶ子どもたちなら経験できることを見事に描いています。それが息子の心にまっすぐ入り込んで行ったのでしょうか。それまで絵本は子どもたちの心を楽ませるものだと思っていましたが、どうやら人間の心の中のバランスさえも取り戻してくれるものだった。むしろ、子どもたちは生きるための大切なエネルギーを絵本の中から感じ取ることができるのだと実感した初めての本でした。

本屋さんや並んでずいぶん経ちますが、この絵本が大好きで、宝物にしている子どもたちがたくさんいます。息子も大きくなるにつれていろんな本と出逢いますが、『よあけ』は書架から消えることなく、いつも肝心な時には開いていました。一人の子どもに対する一冊の本の影響にはすさまじいものがあることもこの本で知ることができました。

二冊目はノルウェーの昔話『三びきのやぎのがらがらどん』です。1957年の出版で2010年で143刷ですから、すごい数の本が子どもたちの手元に残り、その心に入り込んでいることでしょう。三びきのやぎのがらがらどんは、山の上で草を食べて太ろうと出かけて行きます。途中の谷川に橋があり、一番目のやぎがカタコトと音をさせて渡っていくとトロルが出てきて「誰だ！俺の橋をカタコトさせるのは。ひとのみにしてやろう」やぎは、いやいや、これからもっと大きいやつが来るよとさっさと逃げ出します。二番目のやぎがガタゴトと音を立てながらやってきて同じことが繰り返されます。最後に一番大きいやぎがガタンゴトンと足を鳴らしながらやってきて「俺だ！大きいやぎのがらがらどんだ」トロルは「ひとのみにしてくれるぞ！」と戦いを挑みますが、大きいやぎにめちゃうやにやられます。やぎたちは山に行って草をたくさん食べてお腹いっぱい。「とても太って家に歩いて帰るのもやっとのこと。もしも脂が抜けてなければまだ太っているはずですよ。チョコキン、パチン、ストーン」でおしまいです。

昔話には必ず出だしと終わりの言葉があり、私の育った新潟では祖母が「あったんがのう」で始まり、「いちゃぽんとさけた」で終わる越後の昔話を聞かせてくれました。この『がらがらどん』もノルウェーにはよくある話の終わり方です。ドイツのグリムを始めヨーロッパ中に伝わるお話は「死んでなければまだ生きていますよ」という言い方が多いですが、ノルウェーはちょっとだけ違うようです。

この本の出版を悩みました。当時、世界で一番読まれている絵本という評価はありましたが、マーシャ・ブラウンはいい絵本をいっぱい作っていますが、絵のブルーが強すぎると感じたためです。そこで他の出版物の下調べも兼ねて、保育者でこの原書が好きな方や絵描きさんたちとノルウェーに行きました。現地ガイドの日本人女性に大氷河まで連れていってもらおうと、私の長年抱いていた謎は解けました。科学的なことはさておき、実際に氷河の端っこも川の流れもまさしくこのブルーだったのです。ノルウェーに

は耕作地も草場も少なく、家畜たちは山の上のほうに行くしかないので『三びきのやぎのがらがらどん』の事に納得もできました。

ノルウェーの昔話にはトロルが出てくるものがいっぱいあります。スウェーデンにもフィンランドにもあります。一番よく知られているのはトーベ・ヤンソンのムーミンです。あれもフィンランドに伝わるトロルの話が原型です。トロルはどここの国でも好かれ、子どもから大人まで北欧の人たちにとって大切な存在と言えるでしょう。

帰りのバスで、私はふと『三びきのやぎのがらがらどん』をノルウェー語で聞いてみたくなり、ガイドさんに「ノルウェー語で読んでくれませんか」と頼みましたが、「家では夫が娘たちに語っていますが、私では本物でない昔話をお伝えするような感じがするので」と断られました。その代わり運転手さんをお願いしようとしてガイドさんが提案すると、体格の良い40代くらいの元気そうな運転手さんはびっくりするほどの大声で笑いだしました。一体何が起こったのだろう。皆さんは世界史でノルウェーの男たちはみんなバイキングになり世界征服に出かけて金銀をかっばらって帰ってきたことをご存知でしょう。そのイメージが浮かび、鉈でも振り上げて襲い掛かってくるのではないかしらと一瞬恐怖にかられたほどの大声でした。ガイドさんは笑いながら「ノルウェーで『がらがらどん』を語れない父親は一人もないそうです」と言い、運転手さんは150キロで運転しながら語ってくれました。その上手いことといったら。「お前はノルウェー語も知らないくせにどうして上手いとわかるんだ」と思われますよね。でも私はこの話を息子に何度も読み聞かせて暗唱できるくらいだったので、バイリンガルになったのかと思うほどよくわかったのです。瀬田さんの名訳が一番小さいやぎが橋を渡る時にはカタコト、中くらいのやぎの時はガタゴト、大きなやぎの時にはガタンゴトンです。ところが、ノルウェー語では「トゥリップ、トゥラップ」と言う擬音だけです。だから小さいやぎはささやき声で、二番目のやぎは中くらいの声、



福音館書店



福音館書店



福音館書店



福音館書店

三番目のやぎは大きな声で「トゥリップ、トゥラップ」とやるので、今どこを話しているかわかるのです。つまりノルウェー語がばあっと入ってきて、同時に瀬田さんの名訳が思い出されるのです。完全にノルウェー語がわかったとみんなが言いました。それほどの見事な語りに、ただボーッとするばかり。我に返って拍手をすると、色白の運転手さんは首まで真っ赤にして「拍手はやめてください。親父が喋ったことを、俺が今語っているだけですから」と。感動的なストーリーテリングの時間でした。

その後『ノルウェーの昔話』を出版し、そのお礼にもう一度ノルウェーに行きました。山の中に入り、トロールが出てきそうなところがいっぱいあったので、思わず24、5歳の運転手さんに「『三びきのやぎのがらがらどん』を語れる？」と聞くと、「できるわけないでしょう」と言われました。そうか、世代的にもうあの話を語れる人はいないのかなと諦めかけたら、突然「トゥリップ、トゥラップ」とスピーカーから声が出てきました。スイッチを切り忘れていたのかもしれませんが、最後まで見事に語ってくれました。これにはスタンディングオベーションです。彼もまた首まで真っ赤にして「実は、親父から何回もこの話は聞いていたけれど、人前で喋ったのは初めてです。もう結婚しても大丈夫だ」と言いました。文化とは何かを伝えること。次の世代に何か伝えるものを自分が持っていること。それが結婚の大切な動機の一つでもあるのだということを知った感じがして、そのことにも感動しました。

今でもノルウェーの子どもたちは『三びきのやぎのがらがらどん』が好きです。そこでは誰もこのマーシャ・ブラウンの絵本を見てもいませんが、その舞台で育ち、お父さんから聞かされ、その物語が心の中に生き、自然がそのまま語られている。それで充分なのです。やはり昔話は素話が一番素晴らしく、幼い子どもが心の中で言葉を絵に変えることが出来る一番優れた文体です。絵本や昔話に優れたものはいろいろありますが、本来は耳から聞くものなので、それを子どもたちに話してやるのが一番いい方法だと言いたいです。

もし皆さんのお子さんやお孫さんがノルウェーを旅したとします。あるいはノルウェーで仕事することになったとします。その時に「この風景はどこかで見たぞ。そうだ。おばあちゃん、おじいちゃんが読んでくれた『がらがらどん』の風景だ」と思い出すかもしれません。それほどマーシャ・ブラウンの絵は見事にノルウェーの風景を活写し、雰囲気を描いています。こうして子どもたちは、小学校一、二年までに、絵本を通して世界中を旅するのです。『ひとまねこざる』ではニューヨークの街が、マドレーヌという女の子の絵本ではパリが、『かもさん おとおり』ではボストンが実によく描かれている。ボストンに行った幼稚園の子どもが「幼稚園で読んでもらった本の街とまったく同じだったよ」という電話をくれたことがありました。絵本は、さっき一冊目の『よあけ』で心の問題として深いことを言いましたけれども、同時に世界の広がり子どもたちにプレゼントしてくれます。無意識のうちに世界を知っていくのもまた絵本というものの醍醐味、姿だとお知らせしたいです。

三冊目も絵本の定番『もりのなか』です。森でお散歩する子どもにライオン、象、熊とたくさんの動物たちがついていきます。いろいろな遊びをしながら行進し、最後に子どもがかくれんぼの鬼になります。「もういいかい！」と言うとわーと動物たちが逃げて隠れます。迎えに来たお父さんはうちの子はいったい誰と遊んでいたんだろうと思う話です。

お孫さんやお子さんが、私たち大人と違うところに興味を持ち、私たちが見ていないものと一緒に遊んでいる光景に出会われた経験をお持ちではないですか。この本は、子どもの心の中にしかない世界を見事に描いていると思います。

これを受けて『かわいそうなお父さん』という話を福音館の雑誌『こどものとも』に書きました。「(略) 森の中を

地域発展のエネルギー



武州  ガス

川越市田町32-12

TEL (049) 241-9000

武州でんき

武州ひかり

歩き始めてすぐお前は誰かに会ったのかい。なんだかお前が誰かに話しかけられ、立ち止まってその人の言葉をじっと聞いているように僕には思えた。友達だったのか？残念ながら僕には何も見えなかった。静まり返った深い森の中には、お前の姿しか見えなかった。(中略)本当にお前は、だれに話しかけられていたのだろう。誰と行進していたのだろう。僕には相変わらず何も見えなかった」というものです。

父親の目ではこの本がどう読めるのか。子どもの心の中に見える映像を見ることができるとかどうかは絵本との勝負ではないでしょうか。マリー・ホール・エッツが描いてくれたこの絵本を見て、子どもが幼年時代から少年時代に移っていく時の父親の持つ悲しさみたいなものを痛切に感じたことを思い出します。

最後は120年前に誕生した、ビアトリクス・ポターの『ピーターラビット』です。「あるところに、4ひきの小さなうさぎがいました。なまえは、フロプシーに モプシーに カントンテールに ピーターといました。小うさぎたちは、おかあさんといっしょに 大きなもみの木のしたの すなのあなのなかに すんでいました」という出だしです。

この本は絵本の世界に劇的な変化をもたらしました。主人公たちはお母さん、つまり最も安心な人と安全な場所に住んでいた。お母さんの外出中、ピーターだけは父親が捕まったマグレガーさんの畑を散々食い荒らした挙句、

見つかって追いかけられます。捕まる寸前にかろうじてお母さんのところへ逃げ帰る。お母さんはほかの3匹には夕食を用意し、食べ過ぎてお腹が痛いピーターにはカミツレを煎じて飲ませるといってお話です。

出発したところに冒険の末帰ってくる話はThere(ゼア) and(アンド) Back(バック)ストーリーといい、絵本の基本のひとつです。安心できるところからスタートし、帰るべき安心できるところに戻

るといふ話。例えば『ハイジ』ではアルプスの山で自由に育っていた子どもが、町に行くと神経をやられてしまう。でも山に帰ると心が元に戻るという話です。20世紀最大のファンタジー『ホビットの冒険』は、さえない中年男のホビットが旅に出かけ、我が家に帰ってくる話です。副題にはThere(ゼア) and(アンド) Back(バック) Again(アゲイン)とあります。子どもたちは成長するために、行って帰ってくることを繰り返す。この出発場所が曖昧では冒険にすらなりません。子どもたちだけでなく、誰もが行って帰る場所を求めながら生きていると言えるでしょう。子どもたちにとって一番大切な世界、成長にとって一番揺るがせにすることができない世界を1902年にポターがきちんと描いたのはとても大切なことで、今子どもたちが喜んでいる絵本の大半は、この系統に属するものでしょう。

この他にもおすすめしたいのは、ケネス・グレアムの「たのしい川べ」、フィリパ・ピアスの「トムは真夜中の庭で」、アリソン・アトリーの「時の旅人」です。ぜひお読みになって下さい。

質疑応答から

質問 コロナのせいもあり、自然に触れる時間がない今の子どもたちの過ごし方にアドバイスを。

齋藤 幼稚園の子どもたちにはマスクをするなど言います。子どもは口元を見て言葉を覚えていくので、見ないで育つと困った状態になると思います。また、自然の中でたくさんの経験をさせることが大切です。子どもたちをもう一度土から育てて回復させられるか大人が問われている感じがします。

質問 今と昔の子育ての違いをどう埋めればいいですか。親や近所のおばさんにできることは。

齋藤 リンドグレーンの言葉に「遊んで遊んで遊んで遊び死ななかつたらふしぎなぐらい」とありますが、ともかくいっぱい遊ばせる。もう一つはたくさん本を読んでやる。この二つがあれば、生き延びていけると考えます。何とかしなければいけないと思ったら、置かれた立場でなさねばならないことを静かにやり続けるのが大切だと思います。



健康をスポーツでクリエイト

卓球場 教室

T T C 浦和

地域を元気に!

埼玉新聞社キャラクター
サイのぶん太くんと
たま子

県内のニュースは埼玉新聞におまかせ下さい。

埼玉新聞で購読のお申し込みは
購読申込センター

☎0120-633-888

電話受付時間
平日・土曜 午前9:00~午後6:00

情報提供はTEL048-795-9930へ





— あゆみ —



2023年

- 1月21日 34期生電話ボランティア募集説明会 (大宮ソニック)
- 2月6日 第93回後援会理事会 (書面決議)
- 18日 ハートフルコンサート (レイボックホール 大ホール)
- 3月8日 第87回理事会
- 16日 第28回チャリティ映画会 (埼玉会館 小ホール)
上映映画「コーダ あいのうた」
- 23日 第68回評議員会

編集後記



齋藤惇夫氏の講演会で出版時のエピソード、絵本の価値や意義などをお聞きしました。ご自身の著作について触れられませんでした。「グリックの冒険」「冒険者たち」などを読むと大人も引き込まれる展開とキャラの立った登場人物(動物)に魅了されます。また、夜が明け、陽が昇る時の太陽の光の加減、小川のせせらぎが大きな川に合流するさま、初めて見る海できらめく波など、児童文学であることを忘れるほど精緻で豊かな自然の描写も印象的でした。講演会のあとで、これらの作品は息子さんが一番最初の読者だったのだらうな、などと楽しく想像しました。ポターのように動物画でデッサンの腕を磨かれた薮内正幸さんの挿絵も素敵です。たいていの図書館においてあるそうですよ。(H.O.)

インターネット相談のご案内

メールの方が伝えやすいと思われる方、
電話では話しにくいと感じている方、
インターネット相談をご利用ください



埼玉いのちの電話では、インターネット相談も行っています。今号より表紙右上に、「みんなのインターネット相談」ウェブサイトにアクセスできるQRコードを掲載いたします。ご利用ください。ウェブサイトでは、

「◎このサイトについて」 ご案内を見ることができます。

「◎ご利用のしかた」 手順をご確認頂けます。

「◎インターネット相談」 相談に進めます。(無料です)

相談をお受けするのは所定の研修を修了したボランティア相談員です。

相談は全国よりお受けしております。

あなたのご支援を必要としています

いのちの電話の活動は、多くのボランティアの無償の奉仕によって支えられています。この活動をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

振込先

郵便振替 00140-9-137380

加入者名: 社会福祉法人埼玉いのちの電話

ゆうちょ銀行自動引き落としの方法もあります。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。

埼玉りそな銀行大宮支店 (普通) 4315510

口座名: 社会福祉法人埼玉いのちの電話

インターネットから

インターネットからも寄付ができます。
埼玉いのちの電話のHP、または右のQRコードから



埼玉いのちの電話 検索
<http://saitama-id.or.jp/>

ご寄付いただいた方へは、事業報告や広報誌の他、様々な催し物のご案内などをお送りしております。埼玉いのちの電話は寄付金控除の指定を受けている社会福祉法人です。ご寄付は税法上の優遇措置があります。

～私たちは心の通う魅力ある地域コミュニティーづくりに取り組みます～



さいたま市浦和区音砂1-2-1エイベックスタワー浦和オフィス西館
<https://www.home.co.jp/> TEL:048-824-1161

- 共に生き、共に育つ -

高度で信頼性の高い情報サービスを提供し、
顧客第一主義に徹します。
人皆それぞれに必ず長所があることを認め合います。
互いの弱さをカバーしあい共生し共に育ちます。

NCS 埼玉で創業50年、お客様と共に

ノグチコンピュータサービス株式会社

埼玉県さいたま市中央区下落合 1085-15

048(824)1099 (代表) <http://www.ncsnet.jp>



医療法人社団 群羊会
<http://minamifukuin.org>

耳鼻咽喉科

内科・小児科

福音診療所

南福音診療所

TEL048(592)2862

TEL048(591)7191

この街に住み、この街をつくる。
私たちはポラスです。



住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ

ポラスの分譲住宅

ポラス株式会社
埼玉県越谷市南越谷1-21-2
TEL048-989-9119